



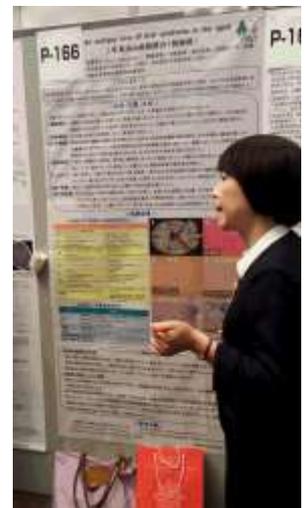
第59回日本小児神経学会学術集会

小児科 渡邊 肇子



「第59回日本小児神経学会学術集会」が6月15日、16日、17日に大阪国際会議場で開催され、参加してきました。当センターから7演題の発表がありました。福水医師は第11回子どもの眠り研究会で座長を務められ「重症心身障害者の心拍変動解析とメラトニン代謝を用いた睡眠評価の試み」の発表、結節性硬化症の症例に発症する発達障害・精神障害のシンポジウムで「結節性硬化症の睡眠について睡眠専門医の文献的考察から」の発表をされました。大越医師は、English Sessionの口演で「Circadian rhythms of urinary oxidative stress markers and melatonin metabolite in patients with SMID」を発表されました。ポスター発表では、小出医師は「在宅管理を前提とした喉頭気管分離術後の重症心身障害児について考える」、齋藤医師は「予後不良疾患を発症した重症心身障害者における緩和ケアとしてのボツリヌス毒素療法」、水口医師は「誤嚥防止手術後の重症心身障害者の長期的臨床像—当センター長期入所利用者25名からの検討—」を発表されました。それぞれの先生が様々な質問に答えられていました。私はポスター発表で、「年長Rett症候群の1剖検例」を発表しました。Rett症候群は年少児での報告は多いですが、年長での報告例は少なく貴重な報告と思われ、臨床像と剖検結果を含めた内容で発表しました。

また学会期間中に、普段なかなかお会いできない先生方にもお会いする事ができ、それぞれの先生方の様子や診療についての話が聞けました。今年の3月まで当センターで働かれていた長澤医師も参加されていて、新天地で活躍されている様子などを聞くことができました。3日間の学会期間中は、様々な症例発表やセミナー、シンポジウムが行われており、最近の知見、他施設の症例経験について勉強してきて、今後の診療につなげていきたいと思いました。



プール開き

指導科 藤井 悠紀子

7月12日(水)プール開きを行いました。暑い中、たくさんの利用者と職員が参加してくれました。今回のプール開きは、昔話『おむすびころりん』を基にした寸劇とミニコンサートです。どんなお話かというと…昔々、海の近くにおじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんはおばあさんの作ってくれた弁当を持って漁に出かけ、あやまっておむすびを海に落としてしまいます。おむすびは魚に食べられてしまいますが、代わりに魚が歌を歌ってくれる…というお話です。寸劇にそって、参加者全員で元気よく『うみ』『涙そうそう』『南の島のハメハメハ大王』を歌いました。寸劇の最後はプールを弁当箱に見立て、野菜に扮した職員がプールに飛び込んでいきます。毎年恒例となった(?)プールへの飛び込みを、皆さん期待していたようで大変盛り上がりました。

今年の夏も安全にプールを楽しめますように。参加して下さった利用者、職員のみなさんありがとうございました。



自衛消防審査会に参加しました!

事務室 伊豆田 拓也

6月30日(金)府中市民陸上競技場にて、自衛消防訓練審査会が開催されました。この審査会は、事業所の防火管理体制の充実、防火意識と活動技術の向上を目的に行われており、当センターからは、男子隊と女子隊の2隊が出場しました。

隊員に選ばれたメンバーは、5月からあじさい館横のグラウンドで、初期消火や避難誘導、屋内消火栓の操作等について、何度も練習を重ねました。府中消防署の方が指導に来て下さった際には、手足の動作をはじめ、ホースのさばき方等、細かい所まで丁寧にご指導を頂きました。また、暑い中での練習が続きましたが、利用者や職員の方々が見学、応援に来てくださることがあり、非常に力を頂きました。

当日は、雨模様の中、42隊が互いの訓練成果を競い合いました。どの隊も素晴らしく、中には、周りを圧倒するような迫力のある演技を行う隊も多々ありました。特に、転倒しながらも、懸命に競技を続け、入賞を果たした1隊の姿には、会場中が感動につつまれました。私たちもそれらに負けないように演技を行い、これまでの練習の成果を発揮することができました。その結果、男子隊、女子隊ともに敢闘賞でした。この1ヶ月半にわたって得た経験を活かし、災害に備えて自助、共助の力を高めていきたいと思っております。最後に、雨の中にもかかわらず、会場まで応援に来てくださった皆様にあらためて感謝申し上げます。



夏祭り特集



～ 1-A病棟

1-A病棟 保育士 林 博之

1-A病棟では、7月14日(金)夏祭りを開催しました。当日に備え、看板作りや盆踊りに打つ太鼓の練習をしてきました。当日は、提灯を飾り付け、盆踊りのCDを流すなど、夏祭りの雰囲気演出して、利用者の気分を盛り上げました。太鼓を打ち鳴らし、夏祭りが始まりました。利用者は、射的や千本釣りのゲームを楽しみました。射的では、狙った景品が取れると大喜びしていました。また、盆踊りの音楽に合わせて手をたたいたり、伸ばしたりして踊っていました。さらに、上手に太鼓をたたいたりしていました。ジュースコーナーでは、大好きなアイスやジュースを食べたり飲んだり、夏ならではの楽しい夏祭りのひと時を過ごすことができました。



～ 1-B病棟 ～

1-B病棟 保育士 鹿志村 真紀

7月19日(水)に1-B病棟で夏祭りが行われました。今年は『魚釣り』『水風船での的当て』『うちわ作り』のコーナーがありました。『魚釣り』は、ビニールプールに入っている魚を30秒間で釣りますが、一部の魚には景品がついていました。景品は光る腕輪、パズル、アクセサリなどでした。利用者は、欲しい景品を狙って竿を投げ入っていました。『水風船での的当て』は、空き缶に点数が書いてあり、その中に水風船を投げ入れて点数を競うものです。水風船の多くは地面や缶にあると割れて、その度に水しぶきと歓声が上がりました。中庭はとても暑かったので、割れた水風船の水が丁度良く涼しくしてくれました。『うちわ作り』では、無地のうちわに貼るための朝顔や紫陽花などの花・スイカ・星・太陽など季節を感じる飾りが沢山用意されていました。利用者は、好きな飾りをスタッフと一緒に貼っていました。個性溢れる素敵なうちわが沢山出来ました。14時から盆踊りの時間でした。利用者は、東京音頭のリズムに乗って腕を振ったり、身体を揺らす等楽しく踊っていました。開催時間は1時間半の限られた時間でしたが、他の病棟からも大勢来ていただきました。来年も工夫を重ねて、今年以上の楽しい夏まつりを企画したいと思います。



～ 3階合同夏祭り ～

3-1病棟 保育士 上野 聡子

7月19日(水)3階合同夏祭りを行いました。前半はサンバダンスグループ「アミーゴ」の皆さんを迎え、本場さながらのサンバダンスを披露していただきました。煌びやかな衣装、色とりどりの羽飾り、軽快なステップ、リズムカルな音楽。その迫力に驚いた表情を見せる利用者が大勢いました。後半は、ポッチャゲーム、パズルのパーツを選ぶ千本釣り、メタセこいやんとくぬぎちゃんのパズル合わせのゲームとともに、ブラックライトを使った「サンバ通り」や大型画面で見るリオのカーニバルなどで、3階合同夏祭りは、大変盛り上がりました。



武蔵台文化センター夏祭り

指導科 松井 かやの

7月15日(土)、府中療育センターに隣接する府中市武蔵台公園において「第41回武蔵台文化センターまつり」が行われました。毎年、当センターでは、綿あめの模擬店を出し、地域の方々とこの出店を通して交流を深めています。

この出店は、地域の方々に当センターを知っていただく良い機会であり、より多くの関心や理解を持っていただけるよう取り組みました。

当日は、30度を超える真夏日でしたが、多くの利用者とその家族、病棟スタッフが訪れました。利用者は、綿あめを食べたり、作る様子を見たり、お祭りの雰囲気を楽しんでいました。夕方になり涼しくなると、地域の子どもたちが綿あめを求めて列をつくっていました。全体では500本を超える売り上げでした。

ある子どもを連れのお母さんから「私が中学生のとき、府中療育センターでボランティアをしました。」と声を掛けていただきました。

また、女子中学生が当センターの事業に関心があると話をしてくれました。

この度の地域の方々との交流を通じ、当センターと地域との積み上げてきたかけがえのないつながりを改めて感じました。これからも当センターを知っていただき、理解されるように取り組んでまいります。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>